

教務だより

2015年7月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

Win・Winの夏

茗溪塾塾長 宇野 雅春

毎年塾が作る先生用の夏のTシャツは、背中に「Win」の文字が印字してあります。そのまま訳せば、「勝利」ですが、このTシャツの意味はちょっと違います。2人並んで後ろを向くと「Win-Win」個人的な勝利とか成功ではなく、人間の関係としてのWin-Winなのです。チームワークの土台を作る関係がこのWin-Winと考えています。人間関係には、4つのパターンがあります。

スポーツの試合には必ずある、どちらかが勝てばどちらかが負ける「Win-Lose」、自分はどうしても他の人が良ければという「Lose-Win」、そして自分もだめなんだから相手もだめになればいいという「Lose-Lose」。「Win-Win」も含めてこの4つの考えのうちのどれかを、だれもが自分の人間関係の基本に置いています。

いつも勝ちたい人は、勝ちたい衝動で、自分の行動の全てを規制しています。自分が最も得をすればいい…勝つことで人を見返してやりたい…皆に凄いと認められたい…スポーツの試合ならまだしも、人間関係の全てを勝ち負けと考えて行動している人に、本当の成功があるでしょうか？自分の得しか考えないリーダーのもとで、チームがまとまることは、まずないと言えます。負けても他の人が良ければいいという考え方も、正常な人間関係は作れません。「あなたさえよければ」と自己犠牲的に考えられても、そういう人と本当の意味での友情は築けないし、いつかは破綻します。どうせ自分がダメなんだから、みんなダメにしてやる…友達を悪い方向に引きずり込むようなこの人間関係のいきつく果ては、とてつもない絶望の淵に思えます。

受験勉強をすると、このコミュニケーションの4パターンが実に鮮やかに浮き彫りになります。負けたくない気持ちに努力が伴わないと、カンニングやごまかしが横行し、しまいには「いじめ」をしたりします。自分はどうしてもよいと考える「Lose-Win」も自ら志望を低め努力を怠るという意味では、正常とは言えません。「Lose-Lose」は結構世の中にははびこっていて、受験勉強では特に、「授業妨害」や「遊びへの誘い」「無意味で長いおしゃべり」や、「だらだら見るTV」や「長時間のゲーム」こんな風になっていると面白おかしいものが全て良くて、真剣なことが悪いことのような風潮を作ります。

これらの間違いは、受験を「競争」と考えるところから来ています。「Win-Win」のよって立つ基盤は、「競争」と「比較」を「悪」と規定するところから始まります。自分があるレベルを目指して努力することと、他人を蹴落とすことは全く関係のないことだからです。比較も他人と自分を比較するのは、全く意味のないことです。人それぞれ全く違うものなのですから、他者との比較は何も生まない不毛な行為です。比較するとすれば、以前の自分と今の自分を比較すること…。

さて、私たちが提唱する「受験に於けるWin-Win」とは、どんなことでしょうか。簡単にいえば、「友達の合格を心からおめでとうと言えるか？」ということです。自分の受験が全くうまくいっていないのに、友達に「おめでとう！」と言えるというのは、多分絶対でないことなのです。もし、言えたとしても心の中は「嵐」のはずです。Win-Winの関係が、本当に成立するとすると、自分も合格していることが絶対条件になります。

「ともに勝ち共に喜ぶ」こと。自分もやれるだけのことをし、相手もまた頑張る。むしろ自分に厳しさを課さないとWin-Winは成立しないということです。この夏、みんなで作る新しいコミュニケーションは「Win-Win」です。このコミュニケーションのスタイルが、未来を作る原動力になることは間違いありません。今年は薄むらさきになるTシャツには、そんな意味が込められています。